

「悪い人」とのコミュニケーション方法

ウパニシャッドなどの聖典では、全ての人の中に神様・ブラフマンがいるという教えがありますが、世の中には性格の悪い人、嘘をつく人、非道徳的な人たちもいます。

ここで我々は「なぜ？」と混乱してしまうのですが、まず自分が内省し自己分析をし、その人が本当に「悪い人」なのかを深く考える事が必要です。

例えば、ある人にとっては「嫌な人・悪い人」でも、別の人にはそうではない事もあります。普通私たちは、「自分の嫌いな人」=「悪い人」と考えてしまいがちですが、それは間違いです。一番最初にしなければならない事は、その人が「本当に悪い人か」「本当に非道徳的な人か」をよく考える事です。

そして次の段階で、そのような人とどのように接していけばよいのかを考えます。

福音ではいくつかの例え話を挙げ、悪い人・非道徳的な人からは気を付けて離れるようにと教えています。

<悪い人にどのような態度をとるか（コミュニケーション方法）>

ラーマクリシュナの福音では、「悪い人」とのかかわりあい方を教えています。

- ① ・□ **毒蛇と托鉢僧のたとえ話**：「ラーマクリシュナの福音」 P12-上段 9 行目
悪い人に対して攻撃するのではなく、ヘビがシューシューという音で威嚇するように、人を傷つけることなく、悪い人から自分を守ることが必要。

- ② ・□ **水のたとえ話**：「ラーマクリシュナの福音」 P11-下段 17 行目
すべては同じ水神様ですが、祭事に使われる浄い水もあれば、洗濯、トイレ、手足を洗う水など不浄な水もあり、同じ水でも使い方が違います。
アーパハ ナラヤナ=Apah アーパハ（水）+Narayanah ナラヤナ（神）
神はすべてに宿っておられますが、不信心な人、邪悪な人、不純な人からは遠ざかって
いるべきです。

サルヴァン カルヴィダン ブラフマン：全てはブラフマン

これはヴェーダーンタのとても大事な教えです。

全ての水はナーラーヤナ（神）、全ての人人はブラフマンという考えは正しいですが、水の例のようにそれぞれ純粋さが異なります。そのような人々とのコミュニケーションの取り方には気をつけなければなりません。

- ・バクティ・ヨーガの考え方⇒すべての人の中に「神様」を見る
- ・ギャーナ・ヨーガの考え方⇒すべての人の中に「ブラフマン」を見る

- ③ ・□ 虎神様のたとえ話：「ラーマクリシュナの福音」 P11-上段 8行目
 虎も神様ですが、もしあなたが虎に抱き着くと食べられる危険性があります。
- ④ ・□ 象使いのたとえ話：「ラーマクリシュナの福音」 P11-上段 17行目
 象も別の形で現れた神ですが、「危ない、逃げろ！」と告げる人もまた神の現れです。

<ヴェーダントの説く重要な二つの真実>

①パラマールティカ（真理）

Pāramārtika パラマールティカ（形容詞）

Pāramārt パラマールタ（名詞）=Pārama パラマ（最高）+arta（真理）

最高の真理、全てはブラフマン

②ヴァヴァハーリカ（どのようにコミュニケーションとるか）

Vyavahārika ヴァヴァハーリカ（形容詞）

Vyavahāra ヴァヴァハーラ（名詞）=振舞い、コミュニケーション

ヴェーダントの教える真実は上記のように二つあります。

一つ目は、全てはブラフマンという最高の真理。

二つ目は、振舞い（コミュニケーション）についての真実です。

そしてこの教えを理解しないと皆さんはとて混乱しますし、非道徳的な人とのコミュニケーションはとて危険になります。

そのためにヴァヴァハーリカ（振舞い・コミュニケーション）とパラマールティカ（すべてはブラフマン）の教えがあるのです。

まず、性格が悪い人・非道徳的な人に対して、我々は憎しみを持つてはいけません。これはとても大切なことです。もし憎しみを持つと、その人が低いと蔑んだり、その人は罪人で私は神聖だと考えがちになり、そこからエゴが生じてきます。これはとても危険なことです。ですから、あなたはその人とコミュニケーションをとらないで、その人の中にも神様がいると考えるのです。（全てを等しくみなすシャマダラシャナの実践）

我々は普通「悪い人」というと、その人の全てが悪いと考えてしまいがちですが、その人が悪いのではありません。その人の中にも神様がいますから、その人の“性格”だけが悪いの

だと識別すれば憎しみは起きません。

「悪い人」も心の汚れを取り除き、性格を直せば聖者にさえなれます。

なぜなら全ての人の本性は「純粋な魂」だからです。

水も同じです。水は元々純粋できれいです。汚いものが入って汚れますが、それを取り除き“ろ過”すれば再び純粋な水になります。

我々は、純粋なものとそうでないものを識別しなくてはなりません。

「悪い人」の中にも純粋さを見て尊敬しますが、その人の性格には問題があるので、コミュニケーションをしないか、或いは付き合い方を気を付けます。そして「悪い人」との交わりで自分の良い性質を失ったり、自分も同じように悪くならないようにします。

気を付けなくてはいけないのは、影響を受けやすい普通の人や求道者です。聖者は悪い人と交わっても影響されることはないので気を付けることはありません。

「悪い人」は、タクルの恩寵で聖者になることもありますが、我々は悪い人の影響で悪くなる可能性があるので気を付けるのです。

☞ 「3種のドウッカとシャンティについて」参照

<シュリー・ラーマクリシュナに会って「悲しみ・苦しみ」が無くなったという例>

福音の中にシュリー・ラーマクリシュナに会って、話を聞いて、悲しみ苦しみが無くなったという信者の例がたくさんあります。

① 例えば、歳を取ったマニ・マリックはとてもお金持ちでしたが、若い息子を亡くしました。彼はその悲しみを乗り越えるために火葬場からまっすぐシュリー・ラーマクリシュナのところに行って泣き、苦しみから救われました。

② 福音の著者である M さん自身も、初めてシュリー・ラーマクリシュナに会った時には家族の問題でとても悲しんでいて、自殺を考えていました。それから後に息子が亡くなり、奥さんも狂ったようになって自殺を考えました。しかし、シュリー・ラーマクリシュナの近くにいることでだんだんと悲しみ苦しみから離れることができ、幸せになりました。

③ ヨガーナンダジ、トゥリヤーナンダジには、今の悲しみは感覚をコントロールできていないからだと言われ、それで克服することができました。

その他いろいろな信者たちが、家族の問題、人間関係の問題、身近な人の死、様々な種類の問題がありましたが、皆シュリー・ラーマクリシュナの近くに行って「ドゥッカ (苦しみ)」がなくなりました。

今日、シュリー・ラーマクリシュナの体はないので我々は会うことはできないのですが、「シュリー・ラーマクリシュナの近くに行く 11 種類の実践」をすることによって、体はなくてもシュリー・ラーマクリシュナの近くに行くことができます。

そして全ての「ドゥッカ (苦しみ)」はなくなり、「シャンティ (平安)」「アナンダ (至福)」を得ることができます。

☞ 『シュリー・ラーマクリシュナの近くに行く』ための 11 の方法」参照